

## 始業式校長講話

明けまして おめでとうございます。

一年の計は元旦にありとう言葉があります。

意味は、元旦は一年の最初の日の朝のことで、「計」には計画という意味があります。

つまり、新しい年を素晴らしい年にするためには最初にしっかりとした計画を立ててから臨むことが大切だという意味です。

皆さんはこの一年の目標を決めましたか？

今日は、皆さんに小惑星探査機のお話をします。

去年の12月6日、小惑星探査機はやぶさ2号が6年、距離にして50億キロメートルの旅を経て地球へ帰ってきました。

このはやぶさ2号は、お土産に「玉手箱」を私たちに届けてくれました。

玉手箱の中には、小惑星「リュウグウ」の砂がはいっており、生命誕生のヒントが詰まっているかもしれないと言われています。世界中の人々が期待しています。

さて、小惑星探査機はやぶさ2号は、満身創痍でぼろぼろだった初代「はやぶさ」とは打って変わり、ほとんどトラブルもなく地球にもどることができました。何故だと思えますか？

ここで皆さんに、日本の宇宙探査の歴史を簡単に紹介します。

今から35年前の1985年に日本は、宇宙探査にのりだしました。

でも、

- ① 火星探査機「のぞみ」を打ち上げたものの火星に到着することはできませんでした。
- ② 小惑星探査機「はやぶさ1号」を小惑星「いとかわ」に打ち上げました。世界で初めて小惑星のサンプルを持ち帰ることに成功しましたが、時間通りに地球に戻ってくることはできませんでした。
- ③ 金星探査機「あかつき」は、予定から5年も余分にかかったうえに、地球には戻ってくることはできませんでした。

このように、失敗を繰り返し、なかなかうまくいかない宇宙探査でした。でも、

- ④ 小惑星探査機「はやぶさ2号」は、スムーズに予定通り地球に戻すことができたのです。

この時、関係者は、「日本の宇宙探査が、地球にようやくたどりつけた。」と話しています。

長い年月をかけ、失敗を繰り返しながらようやく手にした成功であったことが伝わってきます。

何事も、一回目からうまくいくことのほうが少ないのではないのでしょうか。試行錯誤を繰り返しながらくじけないで挑戦し続けた結果に生まれる成功といえます。

最後に、新年を迎え、私から皆さんへ2つの言葉を伝えます。

それは、「がまんづよく」と「チャレンジ」です。

コロナウィルスの感染が収束することを願いながら、新年をがまんづよく、チャレンジする気持ちで取り組んでください。

3学期は、一年間のESDの学習のまとめの時期です。ESD博物館もあります。頑張りましょう。